

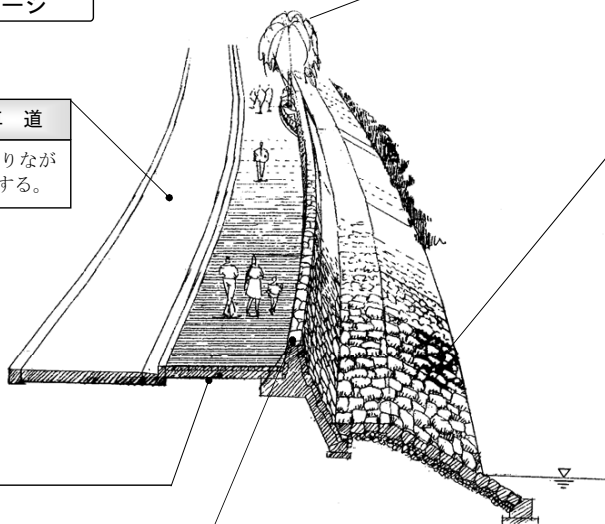
(4) 大手川の整備

大手川の河川改修では、『宮津の歴史と自然を生かした安全で心やすらぐ水辺づくり』をテーマとして、洪水からの安全性の向上を図ることはもとより、流域及び周辺の歴史的遺産や自然を生かした河川の整備を行う。

下流部の整備イメージ

車道

■都市計画との調整を図りながら右岸側に車道を整備する。

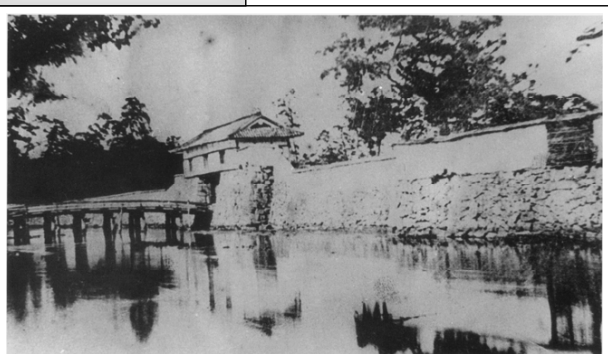


遊歩道

■河川管理用通路の機能を維持するとともに、河川の両岸には、大手川流域の歴史的遺産を巡る散策路を整備する。

石積みの護岸・堤防

(下図：旧藩時代の大手門と大手橋)

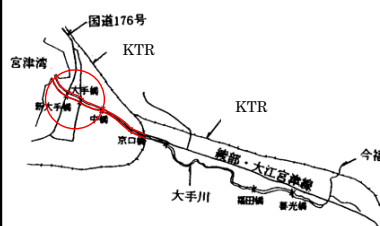


■城下町の風情を残す川辺とするため、堤防となるコンクリート壁、護岸は、大手門の城壁、堀をしのばさせるような石積みの護岸とする。

すきまの多い石積み (1:2)

■護岸は、魚や昆虫など多様な生物が生息できるように隙間の多いものとする。また、隙間には植生が生え、背景の山並みの緑に溶け込むようにする。

整備後のイメージと位置図

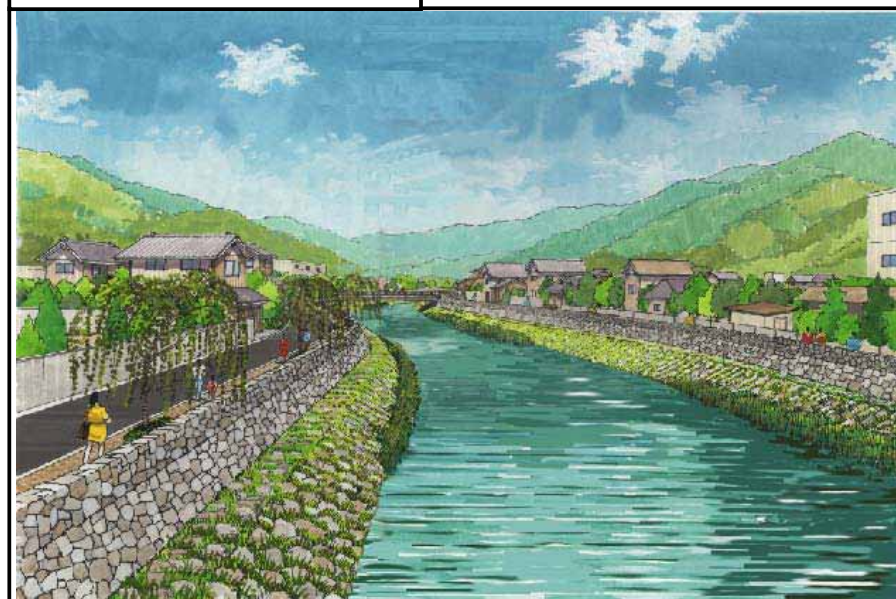


川沿いの緑 (柳、桜など)

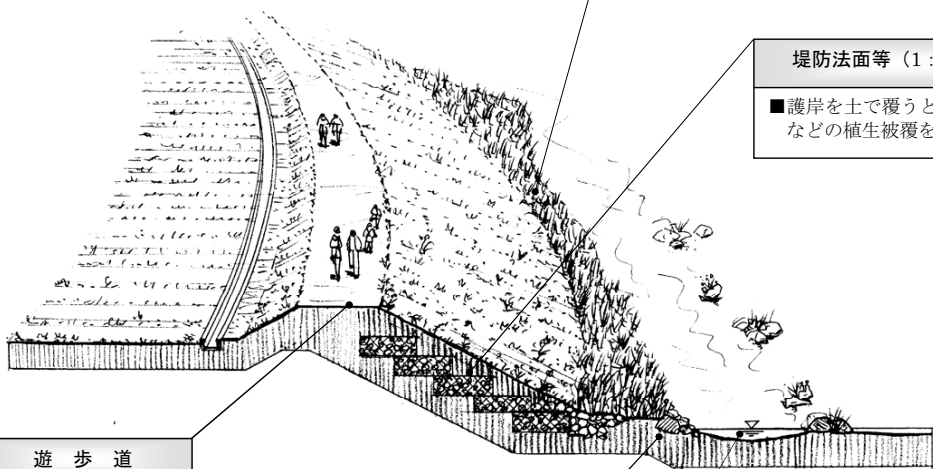
(下図：松縄手
(上宮津街道)の松並木)



■川沿いには、柳、桜や松などの樹木を植え、昔の城下町や街道の情緒を回復するとともに、鳥類など生物の山と海の移動経路ともなるように、川辺の緑量を高めるようにする。



中流部の整備イメージ



ヨシなど

■魚類などの生息の場となるようにヨシなどを植え、現況河川環境の復元に努める。

堤防法面等 (1:2.0)

■護岸を土で覆うとともに、法面には、芝などの植生被覆を行い、浸食を防ぐ。

多様な川づくり

■川幅に余裕がある部分については、人々が水辺に近づけ、生物とふれあい、学習できる場を設けるなどの工夫を行う。

遊歩道

■河川の両岸には、河川管理用通路の機能を維持するとともに、河川沿川の散策、川を用いた自然の学習に利用できる遊歩道を整備する。

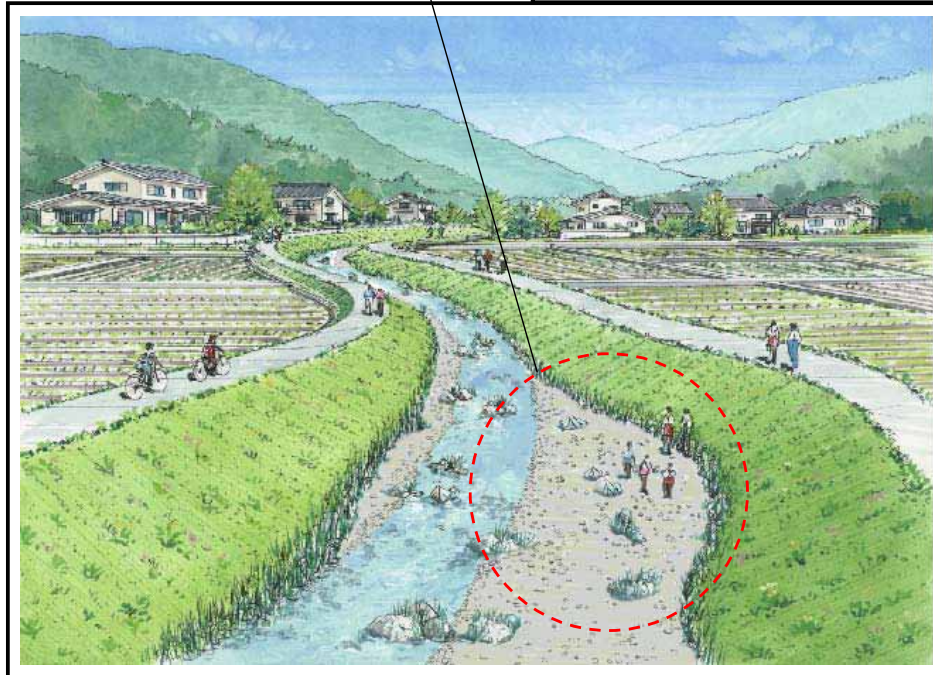
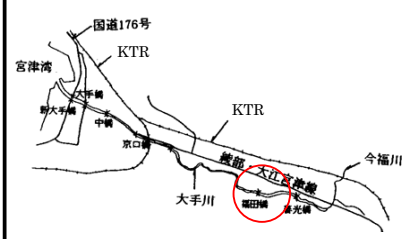
捨て石

■法根の浸食防止や生物の生息・生育の場に必要な空隙のある環境を確保するため捨て石を行う。

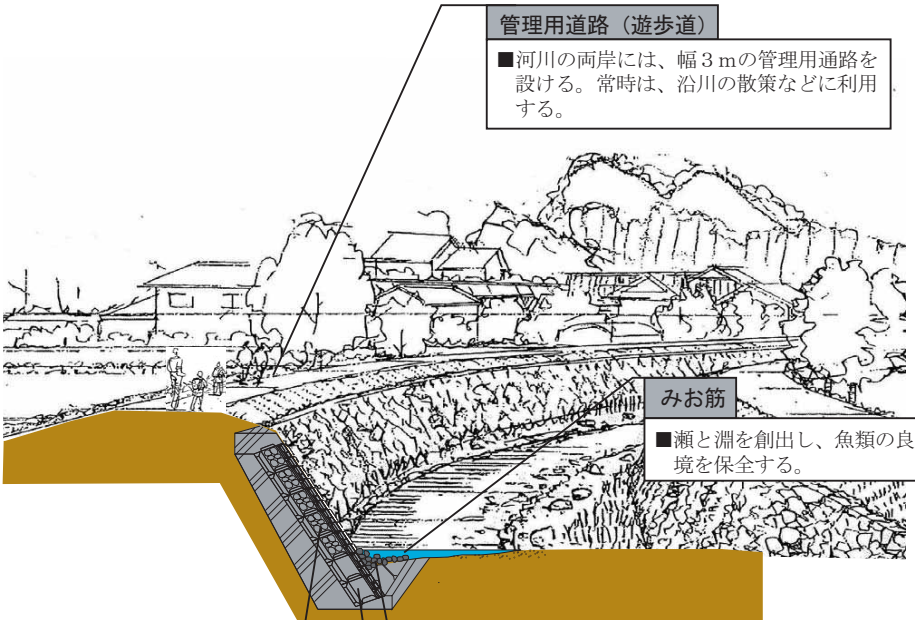
みお筋

■改修後においても、現況の河道を参考に、魚類などの遡上・降下が容易に行えるようにみお筋を設ける。

整備後のイメージと位置図



上流部の整備イメージ



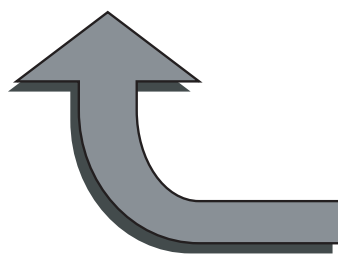
管理用道路（遊歩道）
 ■河川の両岸には、幅3mの管理用通路を設ける。常時は、沿川の散策などに利用する。

みお筋
 ■瀬と淵を創出し、魚類の良好な生息環境を保全する。

環境護岸（空積タイプ）
 ■沿川に水田や河畔林があり、空隙の多い空積ブロックを用い、水辺に生息する小動物の隠れ場をつくる。

環境護岸（魚巣ブロック）
 ■みお筋部には、魚巣ブロックを設置し、魚類の隠れ場を提供する。

寄せ石
 ■現地発生の転石等を活用し、水際部に寄せ石を配置する。



親しめる川づくり
 ■上宮津地区の里山・里川の素晴らしさを再確認し、生物の多様性や地域の景観の観点から、これを保全・利用し、住民だけでなく、地域以外の人にも親しまれる川づくりを目指す。

